きらきらしがだい人

学生のころから社会に出たり、国際感覚を磨きたい。そう思う人も多いはず。滋賀大学では、独自のプログラムを用意して、実践力を鍛える環境が整っています。ここではその環境を大いに活用し、飛躍的に成長した学生たちを紹介します。きらきら輝く笑顔の理由は、挑戦したことで得た自信と意欲の証です。

INTERNSHIP GLOBAL EDUCATION

インターンシップ

実学で得た経験を活かし、さらなる成長を

SMBC信託銀行で金融とデータサイエンスの現状を知る

インターンシップに参加したのは2回生の時です。さまざまな知識を駆使するデータサイエンスの学びのおもしろさが分かるようになった頃でした。以前から金融業界に興味を持っており、金融業の企業の中でどのようにデータサイエンスが活用されているのか知りたいと思っていたところ、SMBC信託銀行のインターンシップ募集を目にして応募しました。書類選考と面接を経て参加が決定。指定されたプログラミング言語と銀行の業務について事前勉強したうえで、東京オフィスで1カ月のインターンシップに臨みました。

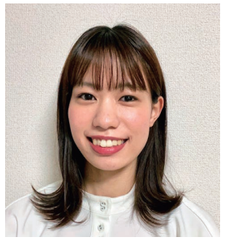
大学で得た知の実践的な活かし方を学ぶ

専属でついてくださった指導社員のサポートのもと、実際に支店からの依頼に対応して改善策を提案させてもらいました。「支店人員の増強」「今後どのような顧客をターゲットにすべきか」といった依頼に取り組みました。最も苦労したのは、データを分析する方向性を決める設計の段階です。支店からの依頼に対し、どのような切り口でデータ分析を行えば問題解決に導けるのかを考えます。例えば、海外案件の取引量・額について、語学の堪能なスタッフが配置された場合とそうでない場合を比較したデータをまとめ、人事にスタッフ増員を認めてもらうという設計をたてました。この時に学んだのは、目の前の課題を解決するためだけの提案では机上の空論になってしまうということ。企業にはそれぞれ異なる背景や現状があります。経営理念・戦略なども踏まえたうえでの提案をしなければならないのだと、企業におけるデータサイエンスの在り方を理解しました。これは、現場で実際の課題に取り組んだからこそ実感をともなって得られた学びだと思っています。

プレゼンテーションを終えた後、人事の方と

貴重な実務経験を通じて、次のステップへ

SMBC信託銀行でのデータ分析では、今までにないさまざまな経験ができました。回答に抜けがあるアンケートといった整理されていない生データを使っての分析を行うのは初めてでしたし、データと支店での体感の整合性を図るために支店訪問してお話を伺う機会もありました。周囲のサポートを受けながらではありましたが、設計から生データの整理、データ分析、プレゼンテーションまで、ひとつの依頼を最後まで自分の力で成し遂げたことで、少し自信もついて成長につながりました。そして、データサイエンスの力が企業活動の中で大いに貢献していることが実感でき、今後の学習へのモチベーションも上がりました。プログラミング力や英語力など自分に足りない部分をはっきりと自覚できたので、社会で活躍するための武器をこれからの大学生活で磨いていきたいと強く思っています。初めは私にできるのだろうかとの不安もありましたが、得られた学びがとても多く、思い切ってインターンシップに参加してみて本当によかったです。



RIKAKO TERAI

寺井 莉香子
データサイエンス学部
坂出高校（香川県）

制度紹介

実践力を磨くための貴重なチャンス

2019年度は、希望者や学内選考を通過した2回生や3回生（のべ54名）がインターンシップに参加しました。例年2月頃に約40社が参加する事前説明会では、各業界の現状と課題についても知ることができます。受け入れ先によって選考方法や期間が異なりますが、与えられた課題について解決策を考え、プレゼンテーションを行い、評価を受けるというものが主な内容です。今後さらに幅広い業種の企業に受入れ先を拡大させる予定です。

親身に指導してくださったSMBC信託銀行のみなさん

共創グローバル人材プログラム

グローバルな社会で必須の力を習得

政府が持つべきさまざまな観点についてプレゼン

ビジネスの場で役立つ英語力を養う

将来は海外で仕事をしたいという目標を持つ私にとって、実践的な英語力と国際的な問題解決力を高められる共創グローバル人材プログラムは、とても魅力的なプログラムだと感じられました。入学試験合格の直後から始まった選考では、100人近くの志望者から最終的に選抜されたのは11人。そのうちの一人に残れたことは自分自身でも驚きでしたが、このプログラムに参加したいという熱意を伝えられた点が良かったのではないかと思っています。本プログラムは、日本人学生とほぼ同数の留学生とで構成されます。日本人学生は専門の英語授業を週に2コマ受講し、アウトプットに焦点を当てたトレーニングを受けることができます。授業はネイティブ教員によってすべて英語で行われます。毎週、英語でのライティングやプレゼンテーションの課題が多く

YUKICHI MORIMOTO

森本 裕吉
経済学部
東大津高校（滋賀県）

出され、経済学部における通常の学修と並行して課題をこなしていくのはかなり大変でした。でも、がんばってやり抜いた分、成長できたとの実感があります。英語力が伸びたのはもちろん、文章作成のテクニックや論理的で効果的に人に伝える発表の仕方も身につけることができました。英語で自分の考えをしっかりと相手に伝える力は国際的なビジネスの場で必須の力だと思うので、将来の目標に向けて良い勉強ができたと思います。

留学生を含めた仲間と一緒に成長

留学生と共に受講する週１コマの授業は、グループでの議論や発表を通して、世界の現状に対する問題意識を向上させることを目的としたものです。たとえば留学生の出身地に日本企業が進出した時にどのような戦略をとればよいか、などのテーマで意見を交わしました。多様な価値観が混在する環境で学ぶ中、自分が当たり前だと思っていた常識や考えは、国や文化によって異なるのだと気づけました。また、プログラムの授業はいずれも少人数で構成され、1～2回生の2年間、とても密度の濃い学修をすることができました。学びへの意欲の高い仲間と親睦を深め、一緒に成長できた時間は、何ものにも代えがたい経験です。今後、海外インターンシップにチャレンジし、在学中にさらなる経験を積みたいと考えています。今の私が考える将来の具体的な目標は、新興国地域で日本の技術やテクノロジーを普及させる仕事に携わること。日本の国際競争力を高めると共に、現地の人々の生活水準の向上に貢献したいと考えているからです。在学中に鍛えた力がどのくらい通用するのか、実社会で試せる日がくるのを楽しみにしています。

制度紹介

語学力と国際感覚を磨く少人数制

海外の成長市場への対応という日本の社会的ニーズと、日本で学びたい、働きたい留学生のニーズの両方に応えるために経済学部に設置された発展的学習プログラム。コースは1学年あたり日本人学生20人程度と留学生10人程度で構成され、多様な価値観と国際的な文脈を学びます。さらに日本人学生は少人数制の英語授業、留学生は日本語授業で語学力を伸ばし、在学中には日本人学生は海外で、留学生は日本で、インターンシップに参加します。

共に学ぶ留学生と日本人学生

石山プロジェクト

現場で教わった、保育者として大切なこと

保育現場の先生の仕事ぶりから学ぶ

保育現場での子どもとのふれあいや先生が仕事をする姿から学びたい。そんな思いから、幼稚園や学校で保育・学習の支援活動のボランティアを行う、石山プロジェクトに参加しました。週1回、講義のない日を選んで参加。活動期間は半年に設定されていますが、私は継続して1年間活動しました。さらに続けたいと思ったほど、得られる学びが大きく、楽しい時間が過ごせました。幼稚園教諭志望の私は、幼稚園の3～5歳児のクラスで保育補助として携わりました。子どもと接していると、これまでの授業で学んだ知識に実感が伴って理解が深まります。年齢ごとの成長の段階などを自分の目で確かめることができました。一方で困ったのは、さまざまな場面での対応の仕方が分からなかったこと。まだ子どもと接した経験が少なかったので、子ども同士のトラブルが起こった時など、自分なりに考えて声かけをしてもなかなか納得してもらえません。そんな私でも少しずつ子どもとうまく関われるようになっていったのは、先生方がどのように対応しているのか実際に見て学べたから。子どもにうまく伝えるための言葉遣いや成長段階によって異なる対応の仕方など、先生方の仕事ぶりを見ているだけで勉強になりました。

さまざまなアドバイスをもらう省察会の様子

講師の先生の貴重な体験談から学ぶ

SAKI KAYAMA

鹿山 沙希
教育学部
大手前高校（大阪府）

月に一度の省察会が活動の支えに

長期間継続して活動することで、先生の役割の幅広さに気づくことができました。クラス全体に目を配っている様子、季節ごとに遊びを工夫している場面などから、先生は目の前の子どもに対応するだけでなく、子どもが楽しく過ごすための工夫や成長につながる環境づくりをされているのだと分かりました。そして、活動を続ける中で大きな支えとなったのは、月に一度プロジェクトの参加者が集まって活動の振り返りを行う「省察会」です。園で起こった出来事を報告し、講師の先生から豊富な経験に基づいてアドバイスをしてもらえます。先生のお話で最も印象に残っているのは、一人ひとりの子どもに向き合い、理解することの大切さを教わったことです。状況や子どもの年齢、普段の様子から気持ちを推測し、保育者はどう受け止めるべきなのかをしっかりと考えさせられる機会となりました。省察会で学んだことを園での次の活動に活かしていくことができ、私の成長を後押ししてくれました。園での活動と省察会で教わった多くの学びは、未来の先生としての私の基礎となってくれるでしょう。子どもの気持ちを尊重し、信頼される先生へと成長していきたいと思っています。

制度紹介

子どもとじっくり関わる半年間

教員志望学生の実践的な指導力を養うために、学校や幼稚園での教育体験を深める学校ボランティア派遣プロジェクト。春学期と秋学期のそれぞれ半年間、１～4回生の教員志望の学生が毎週決まった学年や学級を訪れ、保育や学習の補助を行う中で教職や子どもについての理解を深めます。月に一度、校種ごとに外部講師の先生方を交えて開催される省察会では、活動の振り返りや現場での悩みや疑問点のフォロー、意見交換を行います。

講師の先生からのプレゼントと共に記念撮影